

ユニバーサルデザイン絵本を復刊したい！

目標金額
80万円

クラウドファンディング挑戦中！

2026年 12/1(火)~31(木)

星つむぎの村は「すべての人に星空を」をミッションに、
ふだん星を見るのが難しい子どもたちやご家族などに、星空を届ける活動をしています。
星つむぎの村の前身である星の語り部が制作した、ユニバーサルデザイン絵本**「ねぇおそらのあれなあに」**は、
「星は世界中どこにでも誰の上にも輝いている」というメッセージをお伝えしつつ、
見えない人も見える人も一緒に楽しめる絵本です。
絶版となってしまいましたが、学校はじめ各方面からのニーズが多くあり、復刊に乗り出すことにしました。
ぜひ応援お願いします！



一般社団法人 星つむぎの村
409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸 6587-2
0551-88-9027
e-mail info@hoshitsumugi.org
H P https://hoshitsumugi.org

星つむぎの村ウェブサイト

クラファン
HP は
こちら！



ユニバーサルデザイン絵本「ねぇおそらのあれなあに？」

この絵本は、星つむぎの村の前身である「星の語り部」が企画、目が見えない人たちと一緒につくり、NPO 法人ユニバーサルデザイン絵本センターさんと協働し、2010 年に発刊しました。どこにいても同じ星を見ることができる。私たちは互いにつながっているよ、という思いを込めています。

点字と凸凹絵は、アクリル樹脂で表現されています。星空も正確に表現しており、1 等星は大きな凸、2 等星、3 等星…と大きさを変えて表現しています。



「見えない人も、見える人も、一緒に楽しむ」というのがユニバーサルデザイン絵本の特徴です。



★なぜ復刊が必要なの？

この絵本は、髙橋真理子「星空を届けたい－出張プラネタリウム、はじめました！」やその本が採用された小学校 6 年生国語教科書（光村図書）でも紹介されています。ですが、絵本の出版元が、2025 年に事業を停止したことにより、この絵本の安定供給が難しくなりました。

この絵本は、「りんごの棚」と呼ばれる、読書バリアフリーを推進する書棚でもよく紹介されており、学校から問い合わせも多くいただいています。

まだまだこの先も、この絵本をたくさんの方々に触って、読んで、味わってほしい！





絵本を復刊するにあたり、修正費用、1000 部の印刷、発送などについて、およそ 100 万円の資金が必要です。

それらを販売で回収しようとすると 1 部 2800 円ほどの売値になってしまい、届けたい人たちに届けられない状況がでてきます。そこで、**初期費用の一部をみなさまからの応援によって支えていただきたい**と思っています。



リターンについて

新版絵本の他、人気のトートバック、講演やフライングプラネタリウム出張プラネタリウムなど。
応援ぜひお願いします！





★星つむぎの村って!?★

「星つむぎの村」は、「星を介して、人と人をつなぎ、ともに幸せをつくろう」をミッションに、プラネタリウム、星空観望会、星や宇宙に関するワークショップ、星の寺子屋（インクルーシブな学び場）などを展開しています。誰もが安心して満天の星に会える宿泊コテージ「星つむぐ家」も運営しています。

同じ星空の下、私たち一人ひとりは、みんな違って自分らしく、星のように輝く存在。でも、大きな宇宙から見れば、みんな一緒。あらゆる境界線を越えて、共に生きる小さな社会をつくろう。そんな願いを持つ人たちの集まりが「星つむぎの村」です。